

令和5年度第2回唐津市男女共同参画推進協議会 会議概要

1 開催日時

令和6年2月19日（月） 10:00～11:40

2 開催場所

唐津市役所 大手口別館5階 会議室

3 出席者

井上委員、古川委員、岩本委員、上野委員、大園委員、小出委員、小峰委員、杉山委員、田坂委員、田代委員、田中委員、前田委員、松下委員、吉村委員 [14名]

4 欠席者

井本委員 [1名]

5 事務局

男女共同参画課 仁部課長、島松係長

6 傍聴者

1人

7 会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

① 唐津市男女共同参画基本計画(第5次)策定に係る市の現状と課題について

- ・ 市民意識調査
- ・ 企業アンケート
- ・ 中学生意識調査
- ・ 職員意識調査
- ・ アンケート調査結果を反映した成果指標の達成度

② 唐津市男女共同参画基本計画(第5次)の策定に係る今後のスケジュールについて

(4) その他

(5) 閉会

【会議概要】

1 意見等の概要

事務局	<p>唐津市男女共同参画基本計画(第5次)策定に係る市の現状と課題について</p> <p>唐津市男女共同参画基本計画(第5次)の策定に係る今後のスケジュールについて</p>
会長	<p>本日の議題は、①唐津市男女共同参画基本計画(第5次)策定における市の現状と課題、②唐津市男女共同参画基本計画(第5次)策定の今後のスケジュールについて。</p> <p>①について説明を求める。</p>
事務局	(会議資料に沿って説明)
会長	①の説明内容について、質問及び意見を求める。
委員	<p>【市民意識調査中「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」について】</p> <p>賛成率が増えた世代があったとのことだが、具体的に前回調査より賛成率が増加した世代は？</p> <p>【中学生意識調査中「家の手伝いについてどんな家の手伝いをしていますか」について】</p> <p>性別によって差があったか？</p>
委員	<p>【市民意識調査中「男女共同参画社会」などの言葉の認知度について】</p> <p>「男女共同参画社会」「ワークライフバランス」「ドメスティックバイオレンス」という言葉の認知度が前回調査よりも低い結果になっている。前回調査比較しどの程度低下しているのか？また、認知度の低下は気にしなくてよりものなのか？</p>
委員	<p>【アンケート結果全体について】</p> <p>前回調査と比較し、大きく変わった点があれば教えて欲しい。</p>
会長	<p>【中学生調査及び市職員調査の回答率の低さについて】</p> <p>中学生の回答率が下がった理由、また、市の職員の回答率が低い理由は？</p> <p>【年代ごとの差異が顕著にみられる項目について】</p> <p>言葉の認知度の内容などで10・20代には知られているが、年齢が上がるにつれ知られていない項目があれば教えて欲しい。</p>
事務局 (コンサル)	<p>【市民意識調査中「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」及び中学生意識調査中「家の手伝いについてどんな家の手伝いをしていますか」の調査結果について】</p> <p>今回は速報値報告であり、細かな調査結果はこの場では持ち合わせがない。</p> <p>【市民意識調査中「男女共同参画社会」「ワークライフバランス」などの言葉の認知度について】</p> <p>トレンドワード的のものがああり、前回調査時はよく耳にしていたが、近年では聞かれないということがある。</p> <p>【アンケート結果全体について】</p> <p>詳細な集計はこれから。性別、年齢別での差異などは改めてお</p>

	示ししたい。
事務局	<p>【中学生アンケート回収率が低い理由】 アンケートの時期が11月～12月であり、市内でインフルエンザや新型コロナウイルス感染の流行のため欠席生徒が多かった。</p> <p>【市職員アンケート回答率が低い理由】 WEB回答としたが設問数が多く回答に30分程度の時間を要した。設問の組み立て方にも問題があったかもしれない。延長期限を2回ほど延長したが、このような結果となった。</p>
委員	<p>「デートDV」に関する設問があるが、言葉の内容・意味を知らない割合が男女ともに高くなっている。学校において人権教育は進められているが、男女共同参画の立場からも認知度数値を高めたい。子どもたちにも認知され人権意識も持ってほしいというのであれば、どのようなところから切り込まれるのか？呼子地区で活動されている方の話で「学校ごとで、管理職や子ども達自身の意識の違いを感じる」との意見を聞いた。人権教育、生涯学習課との関係が深いと考える。</p>
事務局	<p>ご指摘の点は、事務局としても危機感を感じたところ。教育現場の状況を教育委員会に確認したところ、男女共同参画に関しては「家庭科」性教育などは「保健体育」で扱われるが、いずれの教科書でも「デートDV」という単語自体は出ていないことを確認してきた。中学校では年に1回、性を学ぶ時間を設けてあり講師が「デートDV」という言葉を使用するかどうかにも影響があるかもしれないとのことだった。講師は、医師や助産師、アバンセDV総合対策センターからの派遣や僧侶であり、講師によって話される内容が学校によって異なるのではという現状が見えてきた。</p>
委員	<p>管理職になりたくない従業員は、女性に限らず男性も比率が高い。働き方が変わってきた。自社で管理職に関する希望アンケートをとったが、希望しない比率が非常に高かった。管理職を希望しない従業員を人事異動で管理職とした場合、ハラスメントとなるのか？管理部門としては期待し、男女にかかわらず、自分もそうであったように、ワンステージ上がる訳なので大変なことも多くあるがその中で成長してきくと考えるが、どうしたものだろうか</p>
委員	<p>あの人のように働きたいというモデルがいると後に続く人が増えるのでは考える。</p>
会長	<p>ハラスメントにはならないということか…。何か例はないか？</p>
事務局	<p>どこまでがハラスメントかというところは難しいが、これまで関係した企業では昇格・昇進の話をした翌日に退職届が来たという話も聞く。現在は売り手市場でもあり若い世代はアルバイト感覚で転職に関する抵抗もないように見受けられる。他県の例だが自治体職員でもキャリアアップとして国家公務員や弁護士を目指す方もいると聞く。働き方が変わったことが大きく影響している、非常に難しい問題と考える。</p>
会長	<p>今の話に男女のバイアスがかかるのかというのが本協議会での</p>

	<p>議題となる。</p> <p>従業員が101人以上の事業主で一般事業主行動計画を策定していない事業所があるとの調査結果だが、これはコンプライアンス違反となる。確認してほしい。第5次計画に関する今後のスケジュールの説明を求める。</p>
事務局	成果指標に関する達成度について
事務局	<p>スケジュールの前に、資料5により成果指標の達成度の説明させていただきたい。</p> <p>(会議資料に沿って説明)</p>
会長	質問等はないか？
事務局	<p>目標値に近づいた指標もあれば、言葉の認知度のように低下した指標もある。事務局としては、第一にまだまだ啓発不足であることが反省点と捉えている。</p>
会長	<p>全体として課題は多いと感じるが、男性職員の育休取得や自主防災説明会を実施されている点など、着実に進めているところは注目すべきと考える。今後、どのような指標をたてていけばよいかは次年度の審議会で議論していかなければならない。</p> <p>第5次計画のスケジュールに関し説明されたい。</p>
事務局	成果指標に関する達成度、課題について
事務局	(会議資料にそって説明)
会長	今後の取り組みの課題に関し意見を求める。
委員	<p>企業アンケート結果をみると、育児介護休業に関する規定がない事業所が多くある。育児介護休業も法律できまっているので取らせなければならない。しかしながら、制度を設けていない事業所がまだまだ存在するのではと思う。そこで目標は結構だが、どのように取り組むのかというのが課題。前回の計画でも「男女を問わない育児介護休業制度などの普及や休暇を取りやすい職場環境づくりの啓発を行う」と記載されている。そのように行うのか。やはり、まだ詰めていかなければ進まないのではと思う。</p>
事務局	<p>今年度は、佐賀労働局から講師を迎え企業向けの制度説明会を実施した。しかし、参加企業が少なかった。市内には小さな企業や個人事業主が多い中で余力がないという話も経営者から聞いたが、市としては、引き続き事業所に対して取り組むべきことは多いと感じている。</p>
会長	<p>計画策定と合わせて民間事業所の啓発も併せて考えてはどの提案だったと思う。この点も次期計画の中で重点課題として取り組んでいただければと思う。</p>
委員	<p>改善に向かっているか否かがわかるような指標をうまくとれたらよいなと思う</p>
会長	<p>先ほど、世代別の違いの説明を求めたのは、若年層の意識は、男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法(の制定を経験した)世代とはかなり異なってきたと感じるから。啓発をしなければならぬと事務局発言があるが、どこをターゲットにどのような中身を、どのようなアプローチでというところを議論しなければ、従前の方法では若年層には届かないと思う面もあ</p>

	る。小学生の親は 30 代が多いと思うが、親世代の意識も変化しているのではと考えるがどうか？
委員	言葉の認知度低下の原因のひとつは教育かとも思う。しかし、子供たちの中では男女平等はかなり浸透している面もある。女子の制服にスラックスが導入された頃から言葉を知らなくても肌身で感じているように思う。教師も若い世代は価値観がことなる。
会長	現在の子供の名前はキラキラネームが多数派で、保護者の考え方も変化しており、子どもにおいても性別役割分業という言葉自体がなく、その改善は自分たちの問題ではないと考えているかもしれない。しかし、逆にネット社会において別の形で人権の抑圧が進んでいるのではと思う面もある。
委員	呼子公民館で住民交流会が開催された中で、呼子の女性たちによる女性と地域防災に関する朗読劇が上演された。このように小さなところから男女共同参画をと思う。
副会長	同年代女性でも男女共同参画の言葉を知らなかった。大人にも子どもにも男女共同参画の啓蒙は大事。
会長	議事については終了。会の進行を事務局に戻す。
事務局	本日いただいたご意見を踏まえながら、第 5 次計画の策定に引き続き取り組む。 長時間にわたりありがとうございました。